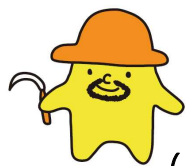
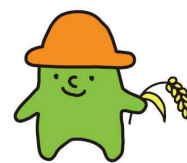


棚田 LOVER S

～ 棚田を愛し、棚田を育む 未来の子どもたちのために～



2008 年度事業報告書



(2008年度収支(決算)報告書はP.9にあります)



香美町貫田うへ山の棚田での田植え体験



神河町奥猪篠の棚田で稲刈り体験



二階町商店街での
棚田米試食会の様子



棚田 LOVER S の活動発表時の
兵庫県井戸知事との記念撮影

目次

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. 棚田LOVER S について |1 |
| 2. 年間事業概要(日時・実施場所・内容) |2 |
| 3. 新聞掲載について |3 |
| 4. 収支報告書 |9 |



1. 棚田LOVER s について

目的

棚田LOVER s は、棚田地域の見学、農作業体験や、都市地域、大学での棚田の多面的機能に関する普及啓発活動(試食会など)を行い、学生と地域、都市と農山村の人々が相互に理解し協力し合える関係を作りあげることによって、持続可能な循環型社会の創出に寄与することを目的に活動しています。

活動地域

兵庫県香美町小代地域貫田のうへ山の棚田
兵庫県神河町猪篠地域奥猪篠の石垣の棚田
兵庫県市川町瀬加地域寺家の棚田
兵庫県姫路市二階町商店街

事業内容

兵庫県市川町、神河町、香美町、姫路市、市川町で田植え(5月)・稲刈り(9月)、大学や商店街で試食会の活動等を行っている。その中で、おいしいお米を提供し、多くの方に喜んでいただいている。

設 立

2007年5月

本 部 (理事長宅)

住所：〒679-2326 兵庫県神崎郡市川町谷 915

連絡先：TEL;080-1427-5377 E-mail; tanadalove@yahoo.co.jp (理事長 永菅裕一)

構成メンバー 43名(2009年1月現在) 5名(2007年3月現在)から38名増加

2. 年間事業概要(日時・実施場所・内容)について

2008年度の事業報告を下記に記載します。

2008年度事業報告

月・日	活 動 内 容
4月上旬	姫路市二階町商店街 棚田米試食会イベント打ち合わせ
4月16日(水)	商店街にて棚田米試食会イベント実施 あそび、まなぼう祭 2008in 二階町商店街-都市と農村を棚田でつなぐ-
4月27日(日)	商店街にて棚田米試食会イベント実施 あそび、まなぼう祭 2008in 二階町商店街-都市と農村を棚田でつなぐ-
4月下旬	兵庫県神河町奥猪篠田植え体験活動の打ち合わせ
5月4日(日)	兵庫県神河町奥猪篠田植え体験活動の実施
5月上旬	兵庫県香美町小代区田植え体験活動の打ち合わせ
5月31日(土)	兵庫県香美町小代区田植え体験活動の実施
6月12日(木)	兵庫県立大学書写キャンパスにて、人力発電による発電量を測定
6月16日(月)	兵庫県神河町奥猪篠田のPRに活用する水車の模擬実験
6月23日(月)	ラベンダーパーク多可のラベンダー咲いたイベント打ち合わせ
7月3日(木)	7月6日(日)エコフェスの打ち合わせ
7月6日(日)	兵庫県立大学新在家キャンパスエコフェスにて 自転車発電を行い棚田のPR活動
7月13日(日)	ラベンダーパーク多可のラベンダー咲いたイベントにて棚田のPR活動
8月4日(月)	兵庫県神河町奥猪篠、地域の人、学生 棚田のPRに活用する水車の試験運転、稲刈り打ち合わせ
2008年8月20日(水)	兵庫県香美町小代区貫田での稲刈り体験の打ち合わせ
2008年8月下旬	学生への呼びかけ
2008年9月6日(土)	兵庫県神河町奥猪篠の棚田で稲刈り体験実施 地域の人、学生 参加者16名
2008年9月15日(月)	兵庫県香美町小代区地域連携センターにてふるさと語り部講座の中で、棚田の活動発表(参加者45名)
2008年9月15日(月)	兵庫県香美町小代区貫田のうへ山の棚田で稲刈り体験実施 地域の人、都会の人、学生、参加者18名
2008年9月	商店街との打ち合わせ
2008年10月	学生への参加の呼びかけ・商店街との打ち合わせ
2008年10月23日(木)	商店街にて棚田米試食会イベント実施 COME(コメ)BACK 棚田祭～ふるさとを伝え愛す in 二階町商店街～
2008年10月26日(日)	二階町商店街のふれあいバザールに出店
2008年11月2日(木)	商店街にて棚田米試食会イベント実施 COME(コメ)BACK 棚田祭～ふるさとを伝え愛す in 二階町商店街～ ボランティアスタッフ8名・試食会参加者は合計51名

2008年11月16日(日)	ふるさと体験発表会(香美町青少年育成町民集会・子どもたちのふるさと学習体験発表会・PTCAフォーラム)で棚田の活動の発表
2008年2月8日(日)	中播磨地域ビジョン推進フォーラムにて棚田LOVER'sの活動を発表
2009年3月15日(日)	商店街活性化棚田PRイベント実施予定 「にかいまち商店街や棚田にさあいこう」

3. 新聞掲載について

・朝日新聞：2008年5月12日(ひと模様)

ひと... 模様



棚田の活用で 環境と食を守る

県立大環境人間学部地域連携サークル「棚田LOVER's」は4月27日、姫路市中心部の商店街で棚田の保全と活用を訴える催しを開いた。代表で同大学院生の永菅裕一さん(23)＝写真＝は「関心を持ってもらえた」。神河、香美両町の棚田での農作業ボランティアに約20人が応募し、棚田米の予約も相次いだ。

大学4年だった2年前、環境に関する研究の一環で香美町に行き、棚田を守りたいという農家の強い思いに触れた。棚田に地滑りや洪水を防ぐ機能があることも学んだ。「棚田を守り、環境や食を守らなければ」と昨春、後輩らにサークル結成を呼びかけた。

実家は農家ではないが、博士課程前期を終える来春、自宅がある市川町などで農業を始める。「誰かがやらないと」

自転車発電体験 「電気」を考える
 棚田の保全と活用を訴える
 催しが、姫路市二階町の二階町商店街で開かれた。「自転車発電」体験があり、多くの人が災害発生時の有効性や電気の大切さを考えた。
 県立大環境人間学部地域連携サークル・棚田LOVERSが商店街の協力で計画した「あそび、まなぼう祭」2008 in 二階町商店街―都市と

農村を棚田でつなぐ」。棚田が洪水や地滑り防止に役立つことなどを紹介したパネルを展示。棚田米を無料で配ったり、棚田での農作業ボランティアを募ったりした。
 自転車発電は防災などの観点から計画した。自転車に自動車の発電機をつなげ、ペダルをこぐと発電する仕組み。会場には福崎町の橋本繁和さん(55)が製作した2台が置かれ、体験者がこぎ続けると発電し、ジュースミキサーが稼働。バナナとミカンのジュースが出来上がった。



ペダルをこぐと発電する「自転車発電」に挑戦する人たち―姫路市二階町の二階町商店街

た。
 豊岡市日高町から来た小学2年の北村輝太君(7)は「しんどかったけど、おいしかった」。ペダルをこいでジュースが出来たのを不思議そうに感じてくれた。

環境、防災を考えよう

「あそび、まなぼう祭」 米の試食や紙すきも

姫路

環境問題や防災対策などに取り組む「県立大学環境人間学部地域連携サークル棚田LOVERS」(永菅裕一代表)が27日、姫路市二階町の二階町商店街で「あそび・まなぼう祭」を催した。休日の買い物客らが興味深そうに立ち寄り、棚田米の試食や紙すき体験を

楽しんでいた。祭りは、市民らに環境保全や防災などを考えてもらい、都市と農村の交流を深めようと商店街の協力を得て開催した。商店街の活性化にも一役買うために空き店舗を会場に選んだ。会場では菜の花とオクラが原料の紙すきや香美町の棚田で栽培

した減農薬コシヒカリの試食、ミックスジュースの試飲があった。また、災害時にペダルをこいで自家発電できる自転車発電機を用意。あらかじめ16日に商店街の買い物客らにペダルをこいで蓄電してもらい、祭りの参加者が発電した電気と合わせて会場の炊飯器やパソコン、ミキサーに用いた。発電した電気でミキサーが動くこと参加者は声を上げて喜んでた。

ペダルをこいだ後にジュースを飲んでた姫路市辻井の荒井優奈ちゃん(8)は「いつもジュースと違う感じだ。会場では菜の花とオクラが原料の紙すき



自転車発電機でミキサーの電力を作る参加者―姫路市二階町の二階町商店街で

・神戸新聞：2008年9月7日(月)(24面)

棚田の稲刈りで交流

神河 親子連れや学生ら20人



稲を刈る子どもたち＝神河町猪俣

棚田を通じて農村と都市の交流を図ろうと、稲刈りなどを体験するイベントが六日、神河町猪俣の奥猪俣地区であった。町内外から親子連れや大学生ら約二十人が参加し、楽しみながら作業に取り組んだ。

姫路市の県立大環境人間学部のサークル「棚田LOVERS」が企画。同地区は昔ながらの棚田が残り、写真撮影などで多くの人が訪れるという。同サークルは昨年から田植えや稲刈りを手伝い、交流を続けてきた。

稲刈りはすべて手作業で、参加した親子らは、地元住民にかまの使い方を教えてもらい、丁寧に刈り取った。神戸市西区の六井綾香ちゃん(6)は「初めてだけど意外と簡単だった」。同町の西川由華ちゃん(5)は「稲が堅かったけど、楽しかった」と喜んでた。

同サークルは、十一月二日に今回収穫した棚田米の試食会を、JR姫路駅前の二階町商店街で行う予定。水菅さん(080・1427・5377)

(土井秀人)

・毎日新聞：2008年9月7日(月)(25面)

親子ら棚田で稲刈り

神河 県立大サークルが体験会



かまで稲を刈り取る参加者 神河町猪俣で

神河町猪俣の棚田で6日、県立大環境人間学部のサークル「棚田LOVERS」(永菅裕代表)が稲刈りと稲木干しの体験会を開いた。姫路市や神戸市などの大学生や親子連れら約25人が参加し、地元農家の松田道明さん(19)の棚田約4アールで5月に田植えをした。棚田LOVERSのメンバーは、現在も農家が稲作を続けている。棚田LOVERSのメンバーは、現在も農家が稲作を続けている。棚田LOVERSのメンバーは、現在も農家が稲作を続けている。

この日、農家から説明を受けた後、参加者は額に汗をにじませながらかまで稲を刈り取った。その後は棚田に竹ざおを組み、日光で稲を自然乾燥させる「稲木干し」を行った。神戸市西区から家族と来た六井りかさん(6)は「稲をサクサク切るのが面白い。カエルやカニもいて楽しかった」と満足げ。棚田を貸した松田さんも「棚田の米がおいしいことや、昔から棚田を苦勞して耕していたことを知ってもらえれば」と話していた。

今回収穫した米は、同サークルが11月2日に姫路市内で予定している棚田PRイベントで販売する。問い合わせ先は永菅代表(080・1427・5377)。

【久野洋】

・神戸新聞：2008年9月14日(金)

棚田で稲刈りを体験

大学生ら参加者募集

「日本の棚田百選」に、同大学のサークル「棚田LOVERS」が農家区画田の「へ山の棚田」とともに企画。

十五日、兵庫県立大学 午前九時正午の音楽の学生と地元農家が、棚田ふるさと語り部講座での魅力を学ぶ講座や稲刈、保水力に優れた棚田刈り体験などを開く。

午後一時～四時は、へ山の棚田でかまを使った稲刈りや稲木干しを体験。収穫した米は十一月に姫路市で行うイベントで販売される。

参加費は五百円。先着約三十人。帽子、弁当、軍手などは各自で持参。当日参加も可。同サークルの水菅裕一さん(080・1427・5377)。

香美・小代 へ保全へ稲刈り交流

県立大学生らサークル



山の斜面に棚田が広がる香美町小代区貫田地区をこのほど、兵庫県立大学環境人間学部(姫路市)の学生ら約二十人が訪れ、「日本の棚田百選」に入っている「うへ山の棚田」で稲刈りに汗を流した。

同学部のサークル「棚田LOVERS」(ラバーズ)が地元農家と企画。香美町と同大が協定を結び、昨年設立された地域連携サークルで、棚田の保全も活用、PRを自覚している。この日は同大二回生の十数人が授業の二環で参加。地元農家、田村哲夫さん(左)が管理する棚田で、かまを使った収穫に取り組んだ。ほとんどが初心者だったが、二人一組で稲刈り競争をするなど盛り上がり、約一時間半、作業を続けた。

サークル代表の同大院生、水菅裕一さん(右)は「棚田は見た目の美しさのほかに、地滑り防止や保水など多くの機能を持つが、このままでは消える運命にある。活動を通じて、棚田の重要性を伝えたい」と話していた。

サークルでは収穫した米を一貫五百円で販売する予定。水菅さん(右)080・1427・5377 (上杉順子)

棚田訪ねて現状学ぶ

兵庫県立大生ら稲刈り体験



香美町小代区貫田の「民館連携の会」などと語り部講座の参加者ら(提供：香美町小代区中央公民館)

その後、参加者らは貫田の棚田に移動。ふるさと教育応援団の田村哲夫氏から、棚田での稲作の難しさについて説明を受けた後、収穫したばかりの棚田米をおにぎりにやポンス菓子で味わった。

また、学生らが稲刈りを体験。若いパワーで手早く刈り取り、稲木に干して収穫の喜びを実感していた。

村岡区村岡の田中恵美子さん(左)は「後継者不足の様子が分かりました。残してほしいが、棚田を維持するのは大変だと感じました」と話していた。

「語り部講座」の講師は、香美町小代区貫田の「民館連携の会」などと語り部講座の参加者ら(提供：香美町小代区中央公民館)

美しい棚田「将来につなげたい」

頑張っています

県立大環境人間学部地域連携サークル「棚田LOVER's」

姫路市新在家木町1の1の12(兵庫県立大学環境人間学部・環境人間学研究科内)。環境問題を考え「まずは自分たちでできることから実践しよう」と県立大大学院環境人間研究科の永菅裕一さん(24)が中心になって07年5月に発足。現在は学生ら約10人がメンバ

ー。県内を中心に年10回程度、田植えや稲刈り、コメの試食会などの活動を行っている。ホームページアドレスは<http://www.geocities.jp/tanadalove/>。問い合わせ先は永菅さん(☎080・1427・5377、電子メールtanadalove@yahoo.co.jp)。

「持続可能な循環型社会」目指し

県内の棚田地域の見学や農作業体験などを通じて都市と農山村の人々との交流を図り、相互の信頼関係を作り上げる作業を通じて「持続可能な循環型社会」の実現を目指している。

永菅さんは大学4年だった2年前、卒業研究のテーマであった「環境教育について、県内の小中学校を回っていた。香美町の小学校を訪れた際、同町小学校の農家、田村哲夫さん(56)から「このままでは、あと5年で棚田はなくなる」と訴

えられた。先祖代々引き継がれた棚田は守りたいが、少子高齢化や過疎が進んで後継者がおらず、採算も合わないというのだ。美しい棚田を前に、「学内で机に向かっていてだけ

でなく、何か実践できないものか」と自らに問いかけ、学内で仲間を募ってサークルをスタートさせた。

その後の棚田の調査で、棚田には地滑り防止機能や保水による洪水調整機能があることを知り、周囲に森林がある者からは「香りやつや

り、粘りが違う」や「棚田米は甘い」などの声が寄せられた。今年香美町と神河町の棚田で田植え(5月)、稲刈りと稲木干し(9月)を体験。稲刈りにはサークル員以外にも、神戸や姫路などから約25人の市民が参加した。稲刈り後、一般参加した県立大2年生、平岡由香利さん(20)は「『いただきませす』の大切さを改めて感じた。受験のときぐら

いの達成感があった。協力した神河町の交流を大切に、美しい棚田を将来につなげたい」と語り、将来的にサークルをNPO法人にする方針を示した。博士課程前期を終える来春には、自宅のある市川町で農業を始めるという。

ことでも様々な生物をはぐくみ、在来種や生態系の保全にも有効であることを学んだ。また、棚田がある山間部は昼夜の温度差が大きく、水も汚染されていないケースが多いため、品質がよく、おいしい米が育つことも知った。

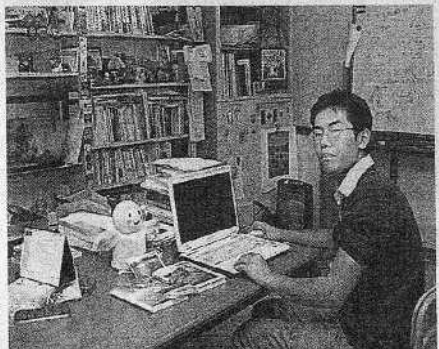
昨年12月には学内で試食会を開催。神河町と香美町で収穫された棚田米と、学内の食堂で使用されている北海道産米を学生らに食べ比べてもらった。試食者からは「香りやつや

り、粘りが違う」や「棚田1kg550円で販売している。一方、昨年4月には、姫路市街地の商店街活性化イベントにも参加。「あそび、まなぼろ祭」と題し、自転車発電で棚田米を炊いたり、ミキサーを回して

ミックスジュースを作るなどして「都市と農村の交流」を図った。今後の活動方針について、永菅代表は「自然も田んぼも、一度荒廃すると元に戻すのに数年の時間と大変な努力を要する。同世代の若者に将来への危機意識を持ってもらいたい。人と人とのつながりや、地域の人たちとの交流を大切に、美しい棚田を将来につなげたい」と語り、将来的にサークルをNPO法人にする方針を示した。博士課程前期を終える来春には、自宅のある市川町で農業を始めるという。



棚田LOVER'sのメンバーや地元農家の人たちが、家族連れらが参加して9月に神河町猪篠地区の棚田で稲刈りが行われた



県立大(姫路市新在家木町)の研究室で資料を整理する代表の永菅裕一さん

猪篠地区の松田道明さん(79)ら地元農家の人たちはこれを機会に、昔から棚田を善男として耕してきたことを知ってもらえたらうれい」と感想を述べたという。サークルは、この時収穫した棚田米を

【丸井康充】

棚田イベント開催 高小と生産者が協力

二階町商店街

兵庫県姫路市の二階町商店街振興組合主催による「COME (こ) むB ACK棚田祭」を2日、3日(共催)兵庫県立大学環境人間学部地域連携サークル・棚田LOVERS)が二階町商店街(旧西松屋町)で行われた。



二階町商店街で行われた棚田祭



棚田米コシヒカリの試食

活動が続いている「棚田LOVERS」の趣旨に賛同した二階町商店街が、今回のイベントで、同商店街振興組合が主催となり、棚田LOVERSをサポート、兵庫県内の小中高大生、生産者が協力するなど、兵庫県初の大規模イベントとなった。

イベント当日は商店街の空き店舗を活用し、サークルの棚田保全活動や協力した学校の「ふるさと絵画」「エコ川柳」を展示した他、ラップで一口サイズに包んだ棚田米の試食、オリジナルの倉敷町小代産棚田米コシヒカリ「棚田舞」を1*五百五十円、棚田米ヒメノモチ「段々美味」を1*七百五十円で販売したほか、生産者が直接買い物をPR、新鮮野菜や「三彩米」(紫黒米、緑米、赤米)を二百*三百円、ギョバが豊富で独特のつぼみ感が特徴の古代米釜釜玄米もち「あか穂の実り」を六個入り五百円、古代米玄米粉ケーキ「あか穂の実り」を二百円、同じザラ地を五百五十円で販売した。また、景品が当たるスタンプラリーでイベントを盛り上げた。

赤穂市の専業農家で今回のイベントに出展した松田光司(静夫妻)は「水稲はヒカリ新世紀、夢の華、キヌヒカリなど八穀を栽培している。そのうち約半分が特別栽培米だ。品質の安心・安全は大仕事だが、次世代につなげることは担い手がいて初めて表現できる。これは国産の農産物を食べて守れる」と強調。

さらに「外国産の食品の問題が次々発覚しているが、国内産の白給米を向上していくチャンスだ。担い手が魅力を感じる環境を作っていくかなければならないが、若い人に生産者になることがおしゃれであるといわれる環境を作っていきたい。イベントを主催した二階町商店街振興組合・小林敬一郎理事長は「国内産、とくに地産産の農産物などを食べることで、生産者も潤い国内産の自給率も高まっていく。学生が素直に棚田の重要性、環境保全活動を行っている姿勢に賛同したが、生産者の思いや主張を消費者に伝える場として、今後も応援していきたい」と語っている。

4. 収支報告書

(柵田LOVER s)2008年度収支報告書

1. 総括

(単位:円)

収入合計	662,860
支出合計	662,860
差引残高	0

2. 収入の部

項目	金額の内容・積算根拠	金額
二階町商店街協力金(4月)		30,000
商店街寄付金(4月)		20,000
二階町商店街協力金(11月)		100,000
活動支援募金		19,660
学生ボランティア活動助成金		100,000
エコフェス自転車発電貸出し費		30,000
ラベンダーイベント自転車発電貸出し費		15,000
柵田米売上金	104kgの売り上げ	55,500
稲刈り参加費(9月神河町)	500円×16人	8,000
ボン菓子売上金	394個の売り上げ	24,700
ソニーマーケティング学生ボランティアファンド		200,000
ひょうご安全の日推進事業助成金		50,000
寄付金		10,000
合計		662,860

3. 支出の部

項目	金額の内容・積算根拠	金額
商店街試食会活動経費(4月)	自転車発電講師謝金	10,000
	講師交通費	3,000
	柵田米購入費(14kg)	7,000
	ボン菓子(100個)購入費	10,000
	講師・スタッフ飲食代(弁当・飲み物)	7,071
	備品購入費(花・シール・ボード・香り玉・ペン・はさみ等)	4,004
	みかん缶詰20個、パナナ5袋	5,850
	粗品購入費(草木染めハンカチ、箸置き)	5,000
柵田米購入費(香美町)	112kg×300円	33,600
柵田米購入費(神河町)	120kg×300円	36,000
ラベンダーパーク多可への寄付		3,000
商店街試食会活動経費(11月)	自転車発電講師謝金	30,000
	両替手数料	105
	新聞購入費	130
	通信費(FAX代)	800
	ボン菓子購入費(500個)(80円×500個)	40,000
	スタッフ交通費補助(8人)	11,300
	柵田米運搬費精米費	10,400
	柵田米購入費(11kg)(試食会用)	4,400
柵田米購入費(104kg)(販売用)	31,200	
スタッフ飲食代(弁当・飲み物)	6,832	
謝金	土地を貸してくださった地域の方への謝金	10,000
活動備品購入費	水車作成備品	9,915
	備品購入費	17,589
活動交通費	5月31日香美町での田植え ガソリン代:5163円 高速代:1400円	27,740
	5月31日香美町での田植え ガソリン代:4492円 高速代:2300円	
	9月6日神河町での稲刈り ガソリン代:4,717円 高速代:900円	
	9月15日香美町での稲刈り ガソリン代:6,268円 高速代:2,500円	
郵送料		920
印刷費		20,000
事務人件費		287,004
次回活動資金		30,000
合計		662,860



再び美しい棚田と出会える日を楽しみに・・・

棚田LOVER s2008 年度事業報告書のご連絡・お問い合わせ

棚田LOVER s 理事長:永菅裕一

Tel / 080-1427-5377 E-mail / tanadalove@yahoo.co.jp